



令和3年度 第1回 研究部長会 7月8日(木) 9:30~16:30 オンライン開催

全国研究部長会は、年に2回開催され、各单位教頭会・副校長会の研究部長と全公教役員が参加し、研究の基本的な考え方や進め方について共通理解を図るとともに、識者の講演を通して喫緊の教育課題について理解を深めるため開催しています。令和3年度 第1回研究部長会は、第63回全国研究大会佐賀大会、各ブロック研究大会に先立ち、オンラインで実施しました。

(1) 「第12期全国統一研究主題」及び全国共通研究課題」について

第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の2年目として、松井研究部長より趣旨説明と「継続性」「協働性」「関与性」の視点から研究の継続・推進について説明をしました。

(2) ブロック別協議

研究主題を基に、全国の各ブロックの研究部長同士で協議を行いました。協議後代表ブロックから発表をし、情報共有をしました。

① 協議I 「各都道府県における研究部長としての活動状況」について

北海道1 グループ

北海道は広域なので6ブロックに分けて研究を進めている。地域が多く、参集することや意思疎通を図ることが難しいというデメリットはあるが、いろいろな地域、学校があって研修が進められていることは、私たちにとってストロングポイントである。昨年度から始まった第15次3カ年計画については、全公教リンクする形で取り組んでいる。北海道としてのサブテーマ「夢をもち 未来を創り出す力を育む活力ある学校づくりの推進」として、各ブロックの教頭会で研究を進めている。全公教と道公教が基本としている3Cの視点をもちながら統一した研究を進めている。

関東甲信越1 グループ

昨年度は、3月~5月学校が休校となったので各地区で研究を進め、関東甲信越地区としての大きな研究大会は実施できなかった。山梨県、茨城県は各地区での研究を進めて紙面発表大会を行った。栃木県でも年2回参集しての研修会を行っているが、昨年度は、コロナの影響で実施できなかった。今年度もコロナ感染の状況を見て対応していく。講演会是一部役員と各地区の研究部員を集めて実施し、その後、県のホームページに掲載して視聴する予定を立てている。茨城県では、少人数の分科会場をたくさん設置して実施したいと考えている。それぞれの地区や地域によって状況が違うがそれぞれの地区や地域で工夫して研究を進めている。

近畿1 グループ

コロナ禍にあっては、引継ぎ、研究部長としての資料整理等の難しさを感じている。その中で、教頭の職務上の課題を基にテーマを考えていくことになる。参集しての研究会ができなかったので、紙面での承認や決議、研究テーマの共有等々を行った。今後の研究会等の講師の選定も研究部長の役割として引き継いだ。11月に近畿大会を実施することになるので講師を招聘して、ICTにかかわる内容の講演会を行う計画であるが、コロナの関係で参集型の研究大会は難しくなっている。研究部長として課題は明確になってきているので、課題を解決するための講師の選定やどのように解決していけばよいのかを考え、先進的な取り組みを広めるための方法を考えていきたい。

②協議 「各学校における管理職としての課題」について (第1~6分科会のテーマについて)

東北1 グループ

第3課題については、ICT環境について協議した。教員用のPCや児童・生徒用のタブレットが未配布の県があること、ICT支援員が県から配置されたこと等々様々な意見が出された。第4課題については、

危機管理についてである。コロナ対応のことが課題である。例えば、小学生の弟や妹が感染した場合には、中学校でどのように対応すべきなのか・・・様々な問題が生じてくる。対応の窓口は、副校長・教頭などで、感染者が出た学校の対応の在り方についての情報を収集して万が一自校での感染が出た場合に備えている。第6課題については、働き方改革を進めているがなかなか改善が図れていない。ただ単に業務量を減らせばよいということではない。まずは、全職員で働き方改革の意義を確認し、業務量に軽重をつけて進めているという意見が出された。最後に教頭の職務内容について話題になった。施設から通う分教室では、校長、事務職員、養護教諭が日常不在なので教頭が連絡の中心となって取り組んでいる。また、施設と病院等々と常に連絡を取り合っているという話が出た。

東海・北陸1 グループ

人材育成にかかわることが課題として出された。若い教員の採用が多くなってきた中で教員の資質向上が大きな課題となっている。若い教員は、学級経営の事や保護者対応の事、様々な人間関係の事など、分からないことが多い。また、若手の育成の陰に隠れてベテラン教員をいかに導いていけばよいかという課題もある。例えば GIGA スクール構想についていけない教員への対応、働き方改革に関連する事項としては部活動や教育活動において従前のようなやり方で進めてしまう教員を変容させることも課題としてあげられる。学校において国や県から新しい取り組みが課された場合の窓口は、教頭である。GIGA スクール構想、働き方改革、コロナ対応、ワクチン接種、夏季休業日中の健康診断等々、教頭が一人で抱え込むことのないよう組織で対応していかなければならない。学校が気持ちよく主体的に働けるような教師集団を作ることが教頭の役割である。

九州1 グループ

各学校が抱えている共通課題として、教職員の世代間の格差・二極化が挙げられた。20代～30代が占める割合は40～50%で中間層が少なく、50代以上のベテランが多く、今の時代の仕事への不適用感等が出された。また、新学習指導要領の実施とコロナ感染の拡大への対応が同時期に課されたことによる研修活動のやりにくさが挙げられた。さらに働き方改革への支援や指導が思うようにすすめることができない。GIGA スクールへの対応や不登校への対応も十分にできない状況にある。そのような中、教頭職の多忙化がすすんできている。様々な課題があるが、その根底にあるものは教員の指導力不足である。力量不足にいかに対応していくかが共通する課題である。人材育成に視点を当てて各校での取り組みを情報共有した。1点目はOJCの体制を整えて人材育成を図る。2点目は、職員室通信を発行して教職員の良さや啓発したい事項を周知していく。3点目は、校内での若年層の研修会を実施して学びあう場を設定する。一番大事なことは、教頭が多忙化の中でできるだけ教室に足を運んで巡回し、教員の良さや困り感、課題を把握して校務を進めていくことが重要である。

(3) 講演

午後は、東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生をお招きし、GIGA スクール構想の推進についてワークショップを行いながらご講演いただきました。講演後、GIGA スクール構想下の効果的な事例・課題の紹介というテーマでグループ協議を行いました。

講師：東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生

演題：「GIGA スクール構想における副校長・教頭の果たす役割」

ワークショップ「クラウドによる初めての共同編集の体験」

※資料 — 全国公立学校教頭会ホームページ 会員専用ページに掲載

令和3年度 第1回全国研究部長会 講師：高橋 純先生資料 パスワード：zen4868

協議：「GIGA スクール構想（授業・導入）下の効果的な事例・課題の紹介」について

講演の内容を生かし、グループに分かれ、各学校のGIGA スクール構想における導入や活用の状況について協議を進めました。

○導入時の児童・生徒への指導 ○授業・家庭での活用 ○教職員の研修実施の状況 などが協議されました。